ふじの山岳会ニュース

発行日　平成２４年８月１８日
発行者　藤野山岳会編集委員会
杉本憲昭　687-2418

2012年８月号

８月定例会報告

藤野山岳会の例会は８月９日㈭20:00～藤野開発に於いて開催されました。
出席者は６名でした。（小池　遠藤　山崎通　佐藤　岸　杉本）

山岳会経過報告

７月２２～２３日　北岳山行　小池2　春田　林　大塚
７月２６日　キナバル訪問団
８月４～７日　双六岳～槍ヶ岳山行　小池2　春田　林　大塚秀章

８月５日　陣馬山パトロール報告（佐野川駐在所　赤土さんより報告）
神の川周辺登山道清掃活動報告

事業計画　兼　参加予定者　アンケート未返送の方は早くへ返送して下さい

８月25(土)～26(日)	秋山郷バスハイキング12名	遠藤 林 岸 小林 杉本 杉本里 佐藤 小池栄 小池千　外3名
９月８日(土)	第３回上野原トレイルレース大会	杉本 倉田義 岸
９月９日(日)	大会当日	遠藤 杉本 岸 小林 真屋 倉田義 佐藤 小池栄 山口 山崎通
10月14日(日)	陣馬山ウォーク	杉本 倉田義 山口 小林 山崎通
10月19日(金)	軍刀利神社参拝	遠藤 岸 小林 杉本 倉田義 小池千
10月20日(土)	香港トレイル研修会予定(藤野開発)	遠藤 小林 杉本 倉田義 佐藤 小池栄
10月28日(日)	名倉クライミングボード体験教室（藤野里山まつり）	遠藤 岸 杉本 佐藤 山口 山崎通
10月28日(日)	ふじの里山まつり出展計画書　会員の皆さまのご協力をお願いします。 ①テント１張（テント料１万円）出展内容　会員２０名 東北物産展　うどん　会員用／販売用　１５０人分 ②テント１張（協会負担）体験グラウンド　クライミング控室 指導者５名以上　交流控室　休憩所　展示／ボード　山道具　出版物	
11月10日(土)	陣馬山トレイル前日準備	遠藤 岸 杉本 小池栄 小池千
11月11日(日)	〃　当日	遠藤 林 岸 小林 杉本 真屋 杉本里 倉田義 佐藤 小池栄 小池千 山口 春田 山崎通
11月16日(金)	健康バスハイキング　紅葉の碓氷峠道探訪	遠藤 小林 杉本里 小池千 山崎通
11月18日(日)	クリーンキャンペーン吉野花だまり	荒井 杉本 杉本里 山崎通 岸　未掲載(次回募集)
11月23日(金)(祭)	神の川ウォーク（いやしの湯～神の川ヒュッテ）	遠藤 山方 岸 杉本 佐藤 山口 山崎通
11月25日(日)	広河原植林活動／下草刈り	遠藤 岸 杉本 倉田義 山口
12月１(土)～４(火)	香港トレイル研修 20名	遠藤 林 小林 杉本2 真屋2 倉田義2 小池2 岸 本多 佐藤 横山他
12月８日(土)	藤野山岳会忘年山行	遠藤 山方 林 岸 大塚 杉本 真屋 杉本里 倉田義 佐藤 小池2 山口 春田 山崎通
12月15日(土)	NESチャンピョンシップ表彰式 15名 役員のみ	遠藤 杉本 佐藤 小池栄 山崎通

次回ＦＭＣ例会

９月13日㈭ 20:00～ ㈲藤野開発　　例会にぜひ、多くの参加をお願いします

平成２４年度 健康バスハイキング

～紅葉の碓氷峠（旧信越本線跡地）アプトの道を巡る～

JR横川駅～碓氷湖～赤レンガの４連アーチ橋碓氷第３橋梁（めがね橋）～熊の平までのアプトの道を巡る（徒歩２時間30分）

月　日	平成24年11月16日（金）（雨天決行）
参加費	1,000円（高速料金、保険料） 10月31日(水)までに公民館に納入
定　員	24名（先着順）
募集開始	９月15日発行の藤野中央公民館報に掲載 10月２日(火)　８時30分から電話にて受付開始
行　程	藤野中央公民館集合７時50分→発８時00分→碓氷峠横川駅着10時10分→アプトの道探訪→碓氷湖一周散策→昼食→碓氷湖出発12時30分→めがね橋→熊ノ平着13時40分→バス集合13時50分→藤野中央公民館着16時00分
持ち物	ウォーキングシューズ・レインウェア（折り畳み傘）・弁当・飲物・帽子・タオル・非常食・ザック・ティッシュペーパーなど
共　催	藤野山岳会

地域の活性化を目指し、駅トレレースとして３大会開催

平成２５年に２大会、平成２６年に１大会の計３大会のトレイルレースを開催します。
トレイルレースの人気が高まり、全国で本格的なレースが続々と誕生していますが、トレイルレースを始めて経験する人に楽しんで戴く大会を企画します。
この大会は初めてトレイルレースを経験する入門者、親子での共同で走るレース、家族の絆を再確認する為のイベント等、気軽に参加できることを目的に開催します。
下記の大会を計画していますので、森林の中を走るトレイルレースを味わって下さい。

１　平成２５年１月２７日（日）　主催・ふじのやまなみトレイルリレー実行委員会
ふじのやまなみトレイルリレー
相模原市緑区名倉グラントスタート・ゴール
１区～５区の３１．２㎞をリレー方式で競うトレイルレース

２　平成２５年３月２４日（日）　主催　峰山トレイル・カップリングレース・峰山風っ子トレイル実行委員会
峰山トレイル（個人単独で競う　１８．３６km）
カップリングレース（２名ペアーで競う　１２．２４km）
峰山風っ子トレイルラン（親子２名で競う　６．１２km）
相模原市緑区ふじの南小スタートゴール
藤野南小～峰山～牧野連乗院～藤野南小

３　平成２６年２月２４日（日）　主催　藤野・鷹取トレイルレース実行委員会
藤野～岩戸山～鷹取トレイルレース
ＪＲ藤野駅スタートゴール
藤野駅～岩戸山～鷹取山～大日野原～藤野駅（８．６km）

キナバル山国際クライマソン実行委員会より北丹沢12H山岳耐久レースへ表敬訪問

北丹沢12H山岳耐久レースより３９才以下優勝者１名、４０才以上優勝者１名をボルネオ島のキナバル山国際クライマソン大会へ派遣していますが、平成２４年７月２７日に開催された富士登山大会に参加した役員の２名（バルワン・シンクラークライマソン大会委員長、ザッカリー・サウル・モピション大会委員長秘書）と通訳１名が北丹沢12H山岳耐久レース実行委員会事務局へ表敬訪問されました。
事務局にて緑区吉野の柴田食堂にて昼食を交え歓談し、相模湖の遊覧船「スワン丸」に乗船し、北丹沢12H山岳耐久レース杉本会長他１４名の役員と交流を深めました。
キナバルの大会は平成２４年１０月１４日（日）に開催されますが、当方より近藤敬仁氏、武藤尚一郎氏の２名を派遣します。

３２年ぶりに蛭ケ岳山頂で箱根ヒメボタルを発見

蛭ケ岳山荘管理人が山頂稜線上に舞っている３匹の箱根ヒメボタルを発見しました。
蛭ケ岳山頂から夏の夜空に舞う箱根ヒメボタルは３２年以上前までは見られたが、それ以降発見されていませんでした。
横須賀市自然人文博物館の大場信義先生の報告によると、１９８０年７月１４日に蛭ケ岳山頂で舞う箱根ヒメボタル姿を発見したとのことです。
ＮＰＯ北丹沢山岳センターで２００３年～２００５年にかけて調査しましたが発見されませんでした。
この間、コース途中の「黍殻山避難小屋」では毎年７月下旬に見られていました。
蛭ケ岳山荘の梶原管理人によると、蛭ケ岳山頂ではシカの食害も少なくなり、下草の成長も良く環境が少し改善されてきたのが、箱根ヒメホタルの生育環境に好影響を与えたのではないかと思われるとの事です。
かっては丹沢山塊稜線上のどこでも見られた乱舞する箱根ヒメボタル復活の夢を見たいものです。
ちなみに箱根ヒメボタルは７月中旬から７月下旬に見られるとの事です。
＊問合せは蛭ケ岳山荘・０９０－２５２－３２０３（衛生電話）

神の川周辺登山道清掃・点検ボランティア活動実施

平成２４年８月４日（土）～５日（日）にかけ、９名のボランティアが神の川ヒュッテに集合し、炎天下の中、神の川林道の落石の除石、源三新道の取付け口の草刈等を実施致しました。
神の川林道は神の川園地先のゲートより、一般車は進入禁止となっており、徒歩のみで通行可となっていますが、７月の豪雨により、神の川林道は落石が多く発生しており、危険個所があり、石を取り除く作業は多大の労力を要する仕事でした。
その他、広河原から源三新道はカヤ等で覆われ、彦右エ門谷を渡渉する登山道がわかりにくい為、草刈りを実施致しました。
ボランティアのメンバーは高齢者がほとんどで、最高齢の８０才の大貫氏を始め、老体にムチ打っての作業、ご苦労様でした。
以下の参加されたメンバー９名（敬称略）の方々に感謝申し上げます。
大貫成一　原幸　遠藤勝己　池崎友行夫妻　杉本憲昭　外山雄幸　加藤博恵　岸百合子

陣馬山パトロール同行

飲料水、服装、非常食…

夏の登山 装備万全に

「水がなくなったら、そこで遭難者ですよ」
午前10時20分。出発から1時間半ほどの地点で、持参した750㎖ペットボトルの水は残り少なくなっていた。不安にボトルを見つめる記者に同署山岳救助隊の赤土弘さん(46)は続けた。
「水は凍らせても2時間は持ってきた方がいい。脱水症状の初期症状。集中力の低下や極度の疲労感は滑落事故の危険性も高まる。暑さや寒さ、疲れなどの変化に備え、必需品という。
3時間余りで標高955㍍の陣馬山山頂に到着。年配の夫婦や学生といった登山客に、署員が「登山計画書は出してありますか」と声をかけライト、非常食も
津久井署「計画書提出を」
尋ねて回った。計画書は、登山する人の遭難発生時に備え、登山口などに用紙とポストが設置してあることが多い。
同署によると、遭難したときも発見を早めるために計画書は必ず出してほしい」としている。
できた食塩をなめていた。
美女谷から明王峠を越え、陣馬山、和田峠に抜ける8㌔の初級コース。林立するスギの間を歩くが、蒸し暑さや、枝が肌に刺さった。
記者の服装は半袖のポロシャツに作業用スボン「暑いから、動きにくいからと軽装も目立つが、けがをする危険だけでなく、スズメバチやマムシに襲われることもある。山は安全が確保されたレジャー施設とは違う。甘く見ないで装備をしっかりしてほしい」。滝口正治副署長(48)にたしなめられた。
足首を覆う登山靴ではけば就業れや疲労感の蓄積につながり、軽装によっては滑落事故の危険性も高まる。暑さや寒さ、疲れなどの変化に備え、必需品という。
3時間余りで標高955㍍の陣馬山山頂に到着。年配の夫婦や学生といった登山客に、署員が「登山計画書は出してありますか」と声をかけライト、非常食も